



医療事務 松井 亜美

医療事務の松井です。我が家には3人の娘とメスのチンチラが匹、夫の趣味でいつの間にかたくさんになったメダカが居ます。受付やお会計でお目にかかる事が多いと思いますのでお気軽にお話しして頂けたら嬉しいです！

お知らせ

人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック・認知症ドック
受付中！詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。

院長の巻頭言

朝夕の風に秋の深まりを感じる季節となりました。皆さま恙なくお過ごしでしょうか。ついこの間まで猛暑日の記録更新と甚だしい残暑を感じさせておりましたが、9月の秋分の日を境に急に朝晩が涼しくなり、にわかに秋を感じる頃になりました。日が暮れるのが早まりますとも悲しさを感じるのは私だけでしょうか。私の誕生日である10月の秋は一段と自分の人生の陰りと言いますか、儚さと言いますか、万感胸に迫る愁いを感じざるを得ません。

まずは早く片付けてしまいたいので、久司君の話題から。ご承知の通り、前頭3枚目の御嶽海は大の苦手である小結の平戸海と対戦し、寄り切りで敗れました。御嶽海は立ち合いで激しい当たりを受け、土俵際まで追い詰められてそのまま力なく寄り切りで敗れました。御嶽海は千秋楽もまた黒星となり、4勝11敗で今場所を終えました。来場所は番付がかなり下げられるでしょうね。褒められる相撲がなく、いい加減にして欲しいですね。元関脇鷲羽山・石田佳員さんは、久司君に良い言葉を贈っています。「最後に優勝した2022年1月の初場所から2年半余りで、ここまで力が落ちてしまうのか。無理が利く26~28歳のころに稽古で貯金をつかっておかなかった力士は、30歳を過ぎてから衰えが激しい。そういう力士をたくさん見てきた。自己流をうたって大関まで上がった御嶽海は例外だと実証してほしかったが、今のところ類に漏れない。かといって、後ろ向きなスタンスで過ごしていても仕方ない。いまさら一日何十番も取るような猛稽古をしたら、間違いなくけがをするけれど、30代なりの鍛え方がある。ジムでの体幹トレーニングを取り入れているようだが、得られた力を生かすためにも相撲の稽古場で汗を流してほしい。最適なのは、部屋の後輩を育てる意識を高く持つこと。助言しながら一緒に四股やすり足をやって、押しの稽古やぶつかり稽古で胸を出す。何人も相手にしていれば、十分な運動量になる。恩義を感じた後輩たちは、引退して親方になった後も含め、慕い続けてくれる。そうして生まれた一体感は心強く、財産だ。4歳下の貴景勝が引退した。上背はないが、自分に厳しく相撲道を追求して土俵を務めてくれた。御嶽海も優勝3度の関経験者なのだから、周りからいろいろ言われてやる立場にない。かといって、イエスマンばかり周りに置くことなく、時には自分から苦言を求め、悔いのない相撲人生を送ってほしいと願う」とな。いつまで「元」大関という過去の栄光でやっていけるのか。

さて、先日打ち明けましたとおりはが患者になり、先月の迷走台風13号の真ただ中の3日間(8月31日~9月2日)、愛知県犬山市の「あいせぼねオペ病院」に入院し、内視鏡的拡大手術を受けて、無事に生還。3日目の午後には診療を再開するといった、傍から見れば馬鹿なことをと思うかもしれませんが

ね、鬼気迫る離れ業で仕事を続けています。医者が患者になった3日間は、とっても至福の時間でありました。8月31日(土)手術当日、朝6時に自宅を出発し、9時に病室に入室し、手術の準備(点滴確保など)が始まりました。胸に初心者マークを付けた、マスクはして全容貌はわかりませんが、小柄で目がとっても美しい、竹内結子似の看護師が初日を担当してくれました。言葉遣いがとっても優しく、物腰も穏やかで、左前腕の静脈に太い点滴ルートをとって頂きましたが、彼女に見とれて痛みなど感じません。さすがにこの時代、白衣ではなく、ナースキャップもかぶっていませんでしたが、これが「白衣の天使」なのかと満足しかり。ちなみにこの病院は整形外科患者がほとんどですが、整形外科の患者の多くは内臓が元気で比較的若い人が多いので、患者と看護師が結婚する確率が一番高いのが整形外科病棟の出会いのようです。合点承知。

それはさておき、午前11時過ぎに手術室にストレッチャーで運ばれました。男性と女性の看護師が血圧や酸素濃度を測定し、麻酔科医師が「直ぐにこれからプロポフォルで静脈麻酔をかけます。」と声をかけてくれ、「眠くならないなあ」と思った矢先、眠りに落ちて、それから気管内挿管、膀胱カテーテル、全身麻酔へと(ここは全く意識がないので想像)。うつ伏せで腰椎4番-5番の右側から内視鏡を入れていきます。しかし左肩関節は石灰性腱炎で腕が上がらないため、右腕を挙上し、左腕は下げたままの姿勢で手術が行われた模様。1時間30分の手術でしたが、麻酔から覚めて、首から肩が凝ったような違和感がありましたが、その他、管を入れられていた喉、オチンコなどの痛みは全くなし、良い塩梅！病室に戻り、3時間はベッド安静でしたが、その後歩行は許可されました。両下肢の痛みは嘘のように消え、しびれも1/10程度になっており、内視鏡手術の威力に敬服しました。翌日9月1日は、室内安静でしたがやることなく、また担当の看護師が日勤と夜勤で交替するのですが、新しい看護師が来て、体温・血圧測定などを楽しみに待つくらいで、他は24時間テレビの日でしたので、ずっとTVを見て、長い日曜日を過ごしました。翌9月2日は画像検査を受けて、午前10時頃に退院し、12時前に自宅に戻ったというやから。医者が患者になった3日間でしたが、整形外科の病気は悪いところを取り除けば良くなるから、わかりやすく、内科とは甚だ違うものだ実感した。以上が、私の初めての全身麻酔手術の体験記。腰部脊柱管狭窄症なら是非ともこの手術を私の患者さんにもお勧めします。この病院では最高齢95歳までこの手術経験があると言います。ちなみにこの病院には名古屋大学出身の整形外科医が6人います。私の主治医は中村周先生といいまだ40代の若い医師ですが、手術の腕は超一流です。

話は180度変わりまして、「わが家の猫ちゃん日記」です。実は私が手術を受ける一週間前に知人から二匹の姉妹野良猫の里親に勧められ、自身が勝手に承諾して、わが家に連れてきました。家内の許可もなく、3匹から5匹になったので、家内のお怒りは頂点に達し、私の身勝手な行動をとがめられました。家内はこの子たちが嫌いとかではなく、私が家に連れてきてしまえば、許すとしても思っているのかという考え方が身勝手すぎて許せなかったようです。確かに私たちの余生とこの猫たちの余生を考えると、最期まで面倒を見れるのかという、責任問題ですよね。ここは兎に角、平身低頭、正直に事情を話し、なんとか里親を許可してもらいましたが、「もうこれ以上猫を増やしません」という誓約書付。



しかしこの姉妹野良猫、なかなか懐きません、これまでのシンバ君、わさびちゃん、楓ちゃんとは全く違って、人慣れしていないまま在宅野良のまま、もう3週間経ちますが、懐きません。それでは新参猫を紹介しましょう。どちらが上か下かは不明ですが、キジトラにオレンジがかった、これぞ麦わら猫(ほとんどメス、大変めずらしい雄)というそうだが、この子の名前は珠(たま)ちゃんです、ヨロピクネ。もう一匹がグレーで、よく見ると、胸に白い三日月があり、お腹からデルタ地帯が白いパンツを履いたような模様の子がアズキ(小豆)と名付けましたが、ここで一言、この子はカギしっぽで縁起が良いのでありがたいですが、尾っぽを上になげなかったのが気がつきませんでした。実は和猫だったのです。長兄のシン

バよりも立派なふぐり(陰囊)が付いているじゃありませんか。顔はいかにもメスのような気品があり、メスとばかり思っていました。なので、名前を改名して、ロン君といたしました。玉三郎のようなきれいな顔をしています、3週間経ってもまだ抱くことはおろか、シャーシャーいいます。なかなか手強くて、すばしっこく、直ぐに行方をくらましてしまいます。珠とロンは兄妹猫なので、仲が良いのですが、ここは長兄のシンバ君とお転婆の楓ちゃんはこの二匹と最近仲良しになり、珠もロンもシンバ君にスリスリしています。楓ちゃんとは月齢が非常に近いので同じ世代と言うことで仲良く遊んでいます。唯一野良の心を知らない自分が人であると思っているわさびちゃんは、この二匹を威嚇するので、高嶺のお局様といったところです。確かに猫が5匹になると、家の中がらんごくになってしまいますね。うんこの量が半端なく、食餌は我々よりもエンゲル係数が高いので、5匹を最期まで面倒見る責任を強調した家内の気持ちが後からひしひしと伝わってくる秋のもどかしさと言っておきましょう。この野良兄妹の続きは巻頭言でお伝えします。



そろそろ冬将軍、インフルエンザの足音が聞こえてきそうです。早めにワクチンを済ませてください。

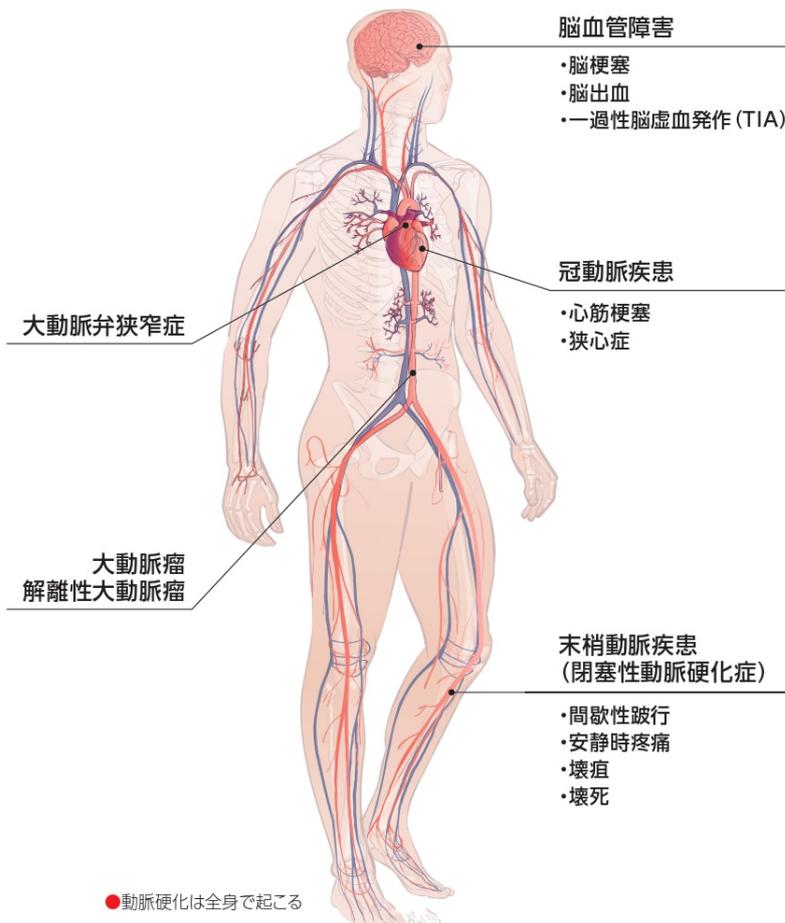
それではみなさん、ごきげんようさようなら。



まるやまファミリークリニック院長
医学博士 丸山 哲弘

The Japan Diet

～動脈硬化が起こす代表的な疾患～



～狭心症～

心臓の筋肉に酸素や栄養を運ぶ動脈に動脈硬化が起こり、心筋が血液不足となり心筋が酸素不足を起こします。主に胸の痛みや締め付けられるような圧迫感があり、心臓に負担のかかる行動、例えば息ごらえや、いきみをとった時に症状がでることが多い。

～心筋梗塞～

長い時間、冠動脈が閉塞して心筋に血液を送ることができなくなると、心筋は酸素不足となり心筋細胞が壊死してしまいます。最悪の場合死に至ります。

～脳血管障害～

脳に酸素や栄養を運ぶのは左右の頸動脈と椎骨動脈の4本の動脈です。これらが動脈硬化を起こすと、小血管が弱くなって脳出血やくも膜下出血などの出血性疾患や、血管が詰まって酸素不足になる脳梗塞を突然引き起こします。脳卒中とも呼ばれ、死に至らなくても、障害が残って筋力低下を起こしたり、飲み込みが悪くなり、栄養不足からフレイルや誤嚥性肺炎を引き起こす可能性もあります。また、認知症の原因にもなるため注意が必要です。